

各 位

会 社 名 東洋シャッター株式会社  
 代表者名 取締役社長 藤田 和育  
 (コード番号5936 東・大 第1部)  
 問合せ先 常務執行役員経営企画統括部副統括部長 丸山 明雄  
 (TEL 06-4705-2125)

業績予想および配当予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、当社は平成21年10月30日の決算発表時に公表した平成22年3月期通期の業績予想および配当予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 業績予想の修正

(1) 平成22年3月期通期業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(単位:百万円、%)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前 回 発 表 予 想 ( A )	16,500	△ 315	△ 415	△ 415
今 回 修 正 予 想 ( B )	16,000	△ 600	△ 690	△ 870
増 減 額 ( B - A )	△ 500	△ 285	△ 275	△ 455
増 減 率 ( % )	△ 3.0	—	—	—
(ご参考) 前 期 実 績 ( 平 成 21 年 3 月 期 )	20,706	355	243	131

(2) 平成22年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(単位:百万円、%)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前 回 発 表 予 想 ( A )	16,500	△ 315	△ 415	△ 415
今 回 修 正 予 想 ( B )	16,000	△ 600	△ 690	△ 870
増 減 額 ( B - A )	△ 500	△ 285	△ 275	△ 455
増 減 率 ( % )	△ 3.0	—	—	—
(ご参考) 前 期 実 績 ( 平 成 21 年 3 月 期 )	20,706	337	225	132

(3) 修正の理由

今後の事業環境としては、一昨年来の景気減退から、一部には底打ち感があるものの、本格的な景気回復には至っておらず、引き続き厳しい状況で推移するものと思われま。

民間企業の設備投資においても、投資計画の縮小等により需要の減少は継続しており、これらの影響による市場の縮小は、受注競争をさらに激化させています。

こうした状況を踏まえ、当社グループとして、引き続き営業活動の強化による収益率改善と諸経費削減の徹底化、適正な人員体制等の構築等を図ってまいりますが、最終の第4四半期においても、当初計画を下回る受注残高の回復は見込めないものと判断し、平成21年10月30日の決算発表時に公表した平成22年3月期通期の業績予想を上記のとおり修正いたします。また、連結業績予想の修正の要因は、かかる個別業績の修正に伴うものです。

## 2. 配当予想の修正

### (1) 配当予想数値の修正

1株当たり配当金			
基準日	中間期末 (第2四半期末)	期末	年間
前回予想	—	5円 00銭	5円 00銭
今回修正予想	—	0円 00銭	0円 00銭
当期実績	0円 00銭	—	—
前期実績 (平成21年3月期)	12円 00銭	8円 00銭	20円 00銭

### (2) 修正の理由

当社は、中長期的な企業価値の向上と株主の皆様方への利益還元のバランスの最適化を経営の最大課題と位置づけております。また、配当の実施においては、企業の経営基盤の強化を図りながら、当該決算期および今後の業績、財務状況等を勘案して総合的に判断してまいりたいと考えております。

しかしながら、平成22年3月期通期において、当初予想を大幅に下回る当期純損失を計上する見込みとなり、今後も厳しい経営環境が予測されます。当社といたしまして、財務基盤の強化が最優先課題と判断し、誠に遺憾ではございますが、期末配当予想および年間配当予想を無配とさせていただきます。

※ 上記の予想は、本資料発表日現在における入手可能な情報に基づいて算出しておりますが、実際の業績は今後の様々な要因により、記載の予想数値と異なる可能性があります。

以 上